

平成27年度

第8回新川和江賞

～未来をひらく詩のコンクール～

と き:平成28年2月14日(日)

ところ:結城市民情報センター3階多目的ホール

ごあいさつ

結城市は、ユネスコ無形文化遺産の結城紬をはじめとする伝統的な地場産業と、古くから受けつがれた文化が根付いている歴史と文化のまちと言われております。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子供達です。「新川和江賞 未来をひらく詩のコンクール」は、詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与することを目的として、平成20年度に、結城市民情報センターとゆうき図書館の開館5周年を記念する事業として、詩人で名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある新川和江先生の名を冠して創設され、今年で第8回を迎えます。

本年度も、市内在住・在学の小・中・高校生を対象に、詩を募集いたしましたところ、2,060点という多くの作品の応募をいただきました。これもひとえに、関係者の皆様の深いご理解と、詩を愛する気持ちの賜物と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品は、いずれも力作ぞろいで、選考には大変ご苦労されたと同っております。受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、惜しくも入選を逃された皆様におかれましても、今後ますます詩に関心を持たれ、来年もご応募いただきますことを期待しております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日をご過ごされますことを願い、ごあいさついたします。

平成28年2月14日

結城市長 前場 文夫

ものみな あいさつ
万象すべてにご挨拶を

—はじめまして、と花は咲く

おくねん
億年春をかさねながら

これは私が、詩集などにサインを求められた時、名前といっしょに扉に書き添えることにしている言葉です。はるか昔から季節がめぐってくるごとに、花たちは咲いているのですけれど、どの花にも、今年始めて咲きました、と言っているような、ういういしさがあります。花たちのそうした美しさや愛らしさは、「お前のことなど、もう何度も見ていて、知っているよ」と、立ち止りもしないで通り過ぎてしまいますと、花のほうでもそっぽを向いて、何も聞かせてくれなくなります。桜や、梅、桃、こぶしなど、木に咲く花なら立ち止って枝を見上げ、すみれ、たんぽぽ、れんげ草など、足もとに咲く花ならゆっくりとかがんで、こちらからも、「はじめまして」と挨拶するつもりで眺めると、それまで気付かずにいた造物主のデザインのすばらしさに、びっくりさせられます。じつにじつに、よく造られているのです。そうしたおどろきが、私たちに、詩を書かせてくれるのです。

イギリスの詩人ワーズワース（1770—1850）は、とある詩の中で、〈おさな子はおとなの父だ〉とうたっています。小さい子供は、見るもの聞くものすべて初めてで、そのようなものがこの世に存在することにびっくりし、発見の喜びに目をかがやかせます。何を見ても感動せず、心が固まってしまった大人にとっては、よちよち歩きの子供のほうが、よほどお父さんであり教師であると、詩人は言っているのです。

りっぱな社会人になるための学問や、備えて置かなければならない常識が大切なのは、申すまでもないことですが、心の中にいくつもの部屋を持ち、そのひとつに、大人になってもやわらかな子供の心を、住まわせてあげてください。ときどきは散歩に連れ出して、花を眺めたり、小鳥たちと話をしたり、空を見上げて流れる雲に、「どこまで行くの？」と、声をかけてみたりしてください。

来年もまた、作品を見せていただくのを、たのしみにしています。

平成28年2月14日

新川和子

次 第

日時 平成28年2月14日(日)
午後2時より

場所 結城市民情報センター
3F多目的ホール

●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞 25名）

●表彰式

- 1 開式のことば
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 表彰
- 5 第8回受賞作品朗読

新川和江賞（1名）
優秀賞（8名）
優良賞（25名）

- 6 新川和江氏による講評
- 7 閉式のことば

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

風のふで

城南小学校

3年

やまだ
山田 めい
明依

☆優 秀 賞

化石の気持ち

城南小学校

4年

つぼやま
坪山 あんな
杏奈

ふしぎだらけ

山川小学校

4年

たかの
高野 ななみ
七海

生まれる

城西小学校

5年

さくま
佐久間 しゅうじ
柊志

だいすきなスイカ

城西小学校

1年

すぎやま
杉山 ことね
心咲

はくぶつかん

城西小学校

2年

ふじわら
藤原 ちづ
千鶴

戦争について感じたこと

絹川小学校

6年

のむら
野村 ゆうか
優華

亡き祖父

結城東中学校

2年

こまつ
小松 みほ
未歩

あばれ馬とよろいかぶと

城西小学校

3年

すとう
須藤 けいた
啓太

☆優良賞

くも

絹川小学校 1年 しのざき かいり
篠崎 海里

あさがお

江川南小学校 1年 ひろせ あいと
廣瀬 愛永

おまつり

結城西小学校 2年 あおき ちゃちゃ
青木 茶々

毎日のさんぽ

城南小学校 3年 かわた ななみ
河田 奈菜美

赤ちゃん

絹川小学校 3年 いしじま りお
石島 里桜

声のタカラモノ

上山川小学校 3年 やまなか せいら
山中 聖心

えいがかん

江川北小学校 3年 たかのざわ じゅり
高野澤 樹里

ぼくのやさい畑

山川小学校 4年 うえの こうたろう
上野 倅大朗

わたしは桜

城南小学校 5年 しもこうべ まなみ
下河邊 愛未

「平和」のために

結城西小学校 5年 ほしの しょうき
星野 将輝

地面の気持ち

城西小学校 5年 よしだ あやの
吉田 彩乃

桜

結城小学校 6年 のろせ さき
野呂瀬 早紀

ランドセル

結城西小学校 6年 ねつ りお
根津 里央

集中

絹川小学校 6年 まつもと ひかる
松本 輝

大丈夫

結城中学校 1年 なかむら このみ
中村 木ノ実

私の名前

結城中学校 2年 なかじま ほえみ
中嶋 保笑

こころのフタ

結城東中学校 2年 たむら しゅんすけ
田村 俊輔

音と気持ち

結城東中学校 2年 まつうち ヒデキ
松内 ヒデキ

つながれた命

結城東中学校 2年 みやた さえか
宮田 牙香

人間と星

結城南中学校 2年 やまなか なな
山中 菜々

「君なんか」

結城中学校 3年 さとう まひろ
佐藤 茉紘

代弁者

結城南中学校 3年 えびさわ まさき
海老澤 匡希

ラムネ

結城南中学校 3年 わたなべ たくろう
渡邊 拓朗

さくらんぼ

結城南中学校 3年 わたなべ はるか
渡辺 春香

一人に一つの人生を

結城第二高等学校 2年 なか お ありさ
中尾 有沙

新川和江賞

風のふで

城南小学校 三年 山田 明依

雨あがり

おひさまが

風のふでで絵をかきはじめる。

大きな水たまりに

風のふでをひたす。

さくらやなの花の

花びらのえのぐで

空のがようしに大きな絵をかく。

せかいじゅうの子どもたちに見えるくらしいの絵を。

雨あがり

おひさまがかいた絵は

七色のこじ。

短評 新川和江賞「風のふで」

山田めいさんの、豊かな想像力（思い描く力）と、やさしく、おだやかなお人柄が、あらわれている作品です。雨あがりに吹く風をへふでくにとたえ、水たまりにひたして、たっぷりと水をふくませ、く空のがようしく、に絵をかくお田々味。

ドイツの詩人ハイネ（1797～1856）は、ある愛の詩の中で、次のようにうたっています。くいまほくは手に力をこめ／ノルウェーの森のいちばん高い樅を引ぎぬき／エトナの山の煮えたぎる／火口にそれを浸し／火をふくむ巨大な筆にして／暗い空のおもてに書こう／アグネス あなたを愛すくと。（井上正蔵 訳）

男性的で力強いハイネの詩にくらべ、山田さんの思い描く情景は、なんとやさしく、やわらかな光と色彩にみちていることでしょうか。くくお田々を見上げている、世界じゅうの子供たちの顔も、見えてくるようです。

優秀賞

化石の気持ち

城南小学校 四年 坪山 杏奈

私は一億年前の海をゆらゆらと泳いでいた二枚貝。

急にまわりがまっくらになって動けなくなってしまいました。

どれだけの長い間、私は眠っていたでしょうか。時には大きな「ゆれ」があり、だんだんだんだん私のねじこは変わっていききました。

そんなある時、「カーン、カーン」と音がして急にあたりがまぶしくなりました。

私は、一億年ぶりに外に出たのです。

今は、他の時代の皆さんのなかま達と「ひょう本」というお家に住んでいます。たまにルーペでじろじろ見られて、ちよっとはずかしいけれど、

私はこれからも地球の上で、すやすやと、昔のゆめを見るのです。

短評 優秀賞「化石の気持ち」

〈ひょう本〉という文字が終りに近づくにつまみずすので、なんだ、そうだったのかと落着きますけれど、読者をけっこうドキドキさせる詩の運び方は、なかなかの腕前です。〈時には大きな「ゆれ」があり〉と書かれた行などには、つい先頃の東日本大震災なども連想され、一億年の間には、私たちの知らない地震や大津波もたびたび起ったにちがいない、と思えてきます。すべての生命体のたどって来た道を、私たちに深く考えさせてくださる詩になっています。

優秀賞

ふしぎだらけ

山川小学校 四年 高野 七海

どうして海は青いの、
すくうとうめいになるんだろう
ふしぎ 　ふしぎ

どうしてにょきにょきいも虫が
ねぶくろみたいなさなぎの中で
白や黄色のちょうになるんだろう
ふしぎ 　ふしぎ

どうしてピーピーリコーダー
ゆびでおさえてひくだけで
きれいなねいろをかなでるの
ふしぎ 　ふしぎ

みんなが書いている字は
だれが最初に書いたんだろう
どうやって書いて、読んだのか
いつも気になるけど分からない
ふしぎ 　ふしぎ

この世界は、だれが作ったんだろう
大人にきいても
友達にきいても
みんな知らない

みんなふしぎ

なんでこんなにふしぎなんだろう
ふしぎと思っている自分もふしぎ。

この世界中　ふしぎだらけ

短評　優秀賞「ふしぎだらけ」

高野さんから「らんになねば、私などは、おばあちゃんか、ひ
いおばあちゃんくらい、長生きしているのですけれど、それでも
ふしぎでふしぎで、夜も眠れない時があります。

たとえば、この第一連。わが家の浴槽ゆすいは白いのですが、水や湯
を満たすと、その水や湯が、うす青く見えるのです。手ですくっ
ても、コップに汲んでみても、無色透明ですのに、水量が増すと、
青く見えるのは、なぜなのでしょう。もしかしたら、海や空が
青いのも、同じ原理なのかも知れませんね。

ふしぎを感じる心。そこから、詩も学問も発明も生まれます。
高野さん、どうもたぐわなふしぎがってっだめさ。

優秀賞

生まれる

城西小学校 五年 佐久間 柊志

一つぶの種から何かが生まれる

それはきれいな花

それはおいしい野菜

それはあまい果物

一つぶの種から何かが生まれる

それはみどりの木

それは大きな林

それはたくさん森

一つぶの種から何が生まれる

それは友だち

それはきずな

それは愛情

ぼくは今日一つぶの種をまきました

短評 優秀賞「生まれる」

〈一つぶの種〉が、どんなに素晴らしい仕事をするか、ちゃんと存じの佐久間さんを、とてもたのしく思います。第一連は、豊かな自然の中で育って、じっさいにその結果を、目で見て口で味わって、わかっているのだから、しょうけれど、一連二連は、〈一つぶの種〉から教えられたことを、社会的に大きくひろげて見せてくださっています。小鳥に食べてもらって、長い歳月をかけ、林や森ぜんたいを移動させるという大事業も、木たちの種はやっつけます。すっくと育った木のように、結びの一行はすばらしい。

優秀賞

だいすきなスイカ

城西小学校 一年 杉山 心咲

だいすきなスイカは、みずみずしくてなつにはさわじつだ。

がぶり、しゃりしゃり じゅん

じゅーすみたい

ゴクゴク ごっくん。

くちのなかのたねをじょうずにだして
プッププッププー

もうひとくち

がぶり、しゃりしゃり じゅん

なつには、スイカがたまらない。

ずっとなつならいいのになあ。

スイカさん

また、らいねんもおいしいスイカに
なつてね。

じゅん じゅん じゅん

短評 優秀賞「だいすきなスイカ」

ほんとうに、なつはスイカがさいこうですね。かよりも大きい半月型にきったスイカに、かぶりのいたすぎやまさんのようすが、目に見えるものです。がぶり、しゃりしゃり じゅん、音によるひょうげんが、じつにおもしろい。たのしいおんがくを、きいている感じがします。それどころか、いっしょになつて、すぎやまさんと、スイカをたぐきょうそうをしているきびんになります。

おもしろい、おいしいスイカがそだちます。らいねんも、わらいねんも、なつがたのしみですね。

優秀賞

はくぶつかん

城西小学校 二年 藤原 千鶴

ひろいへやいっぱいに
たくさんのきょうりゅうのかせきがあった
とても大きくて今にもうごきそう。
もしこのきょうりゅうが生きていたら
友だちになりたいな

空をとびプテラノドンのせなかによって
くもの上へおさんぽに行きたいな
くもをばくばくたべたいな

ブラキオサウルスは首がとってもながい
だからそのながい首の上をすべてみたい
きつとすこく楽しいだろうな

ティラノサウルスとはなかなよくなれるかな
するどいはに、とがったつめ
てきをたおすしっぽ

きよ大なあたまをささえる太い首
ほねもくたくきょうりよくなあと
見た目はちよつとこわいけど

とっても小さい前足がかわいいよ
山ものやきにくをこちそうしたらなかなよくなれるかな
なかなよくなったらうですもうしたいな

ああたのしかった、はくぶつかん
はくぶつかんはゆうえんちだね

短評 「優秀賞」はくぶつかん

私は、きょうりゅうの名まえをきくのが、外国の映画はいゅう
の名まえをきくような気がして、とても好きなのです。空をとび
という〈プテラノドン〉、首が長いという〈ブラキオサウルス〉、
ふじわらさんの詩の中にある〈ティラノサウルス〉には、骨ぐみ
だけですが、十何年前、モンゴルのはくぶつかんのようなこと
ろで、出会いました。生きていたらいっしょにあそびたい、など
と、かろくおっしゃるふじわらさんは、なんとつよいお子さまな
のだらうと、びっくりにしてしまいます。ふみつばさわれてしまつかも、
知れませんが。

優秀賞

戦争について感じたこと

絹川小学校 六年 野村 優華

夏休みに戦争のテレビをみた。

特攻隊の話や

赤十字のかん護師の話

空しゅうで親を失った子供の物語

私は、涙がとまらなかった。

お父さんやお母さんもうまれてない、

おじいちゃんおばあちゃんもうまれてない七十年前にあった、

本当の話。

こんな悲しいことはうそであってほしい、

だけどうそじゃない本当にあったこと。

私は戦争のことを知らなくちゃいけない。

日本や世界中の国で悲しみの涙を流した

人達のことを知らなくちゃいけない。

そして、今も、戦争に苦しめられている人達がいることを知

らなくちゃいけない。

ねえ、天国にいる茂じいちゃん。

茂じいちゃんは戦争に行ったよね？

世界中から戦争をなくすために

私はまず、何をしたらいいのか。

短評 優秀賞「戦争について感じたこと」

野村さんは、ものごとを深く考える〈頭脳〉をお持ちで、戦争についてもしっかりした文章を書ける方だと、お見受けしました。でもこの作品は、題名が示すように、〈こころ〉で感じたこと、それは詩のかたちをとるほうが、読者の〈こころ〉にじかに伝わってゆくと、思い、これをお書きになったのでしよう。あのような戦争は、二度と起してはならないのです。その悲惨さを、これから生まれる人たちに伝えるためにも、体験なさったお年寄りの話を熱心に聞きとり、記録映画や本などもよく読んで、感じたことを率直に詩に書いて、発表してください。ごついで、これからね。

優秀賞

亡き祖父

結城東中学校 二年 小松 未歩

あの人は今、何処にいるのかな
自由な人だから 世界中を飛び回って
いるだろうか
食べることが大好きな人だから
家中の食べ物を 食べているのだろうか
戦争に行った人だから かつての戦友と
あちらで語り合っているのだろうか
仕事熱心な人だから 庭に生えている
草を見て 草をむしれと 怒っているだろうか
さびしがり屋の人だから 一人家で待つ
祖母に寄りそっているのだろうか
家族思いの人だから 私のことをそばで
見守ってくれているだろうか

部屋で一人 あの人のことを思い出す
家で一人 あの人の姿を探す

短評 優秀賞「亡き祖父」

題名が「亡き祖父」とあるので、あの人の祖父のことかと思われるので、ちょっとよそよそしい、遠くに住んでいる孫だっ、その呼ばないだろうな、と思ってしまいます。じいちゃん、おじいちゃんと呼びなれている呼び方で呼んだほうが、詩がずっと温かくなると思います。なつかしさを増します。中学生にもなって、内内うちうちで呼んでいた呼び方をするのは、はにかしいと思われたのかも知れませんが、詩は、はだかの心ぐを丸出しにしたほうが、感動が強まるのです。おじいちゃんは、今も、家の中にいて、家族を見守っていてくださいますよ。この美しい詩を書いてくださったおじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん。

あばね馬じよんがばん

城西小学校 三年 須藤 啓太

小さなうすピンク色の花びらが
ひらひら、くねくね、はらはら、
楽しそうにおどっているころ、

ぼくは、三年生になった。ということは、
もうすぐだ、もうすぐだ、もうすぐだー!!
みんなは上手にのれるのかな？

それともぼくみたいに、ビクビクしてる？
その名は、交通安全教室だ。

あまり時間がないぞ。

学校から帰ったら、訓練開始だ。

黒くてしびい自転車は、

全ぜん言う事を聞いてくれない、あばね馬。

自まんの青いヘルメットは、

ぶ士のしるしの、よろいかぶと。

去年の夏休み、やる気スイッチをオンにして

いくさこのぞんだけれど、ざんばいだった。

ぼくの家のおきな庭と少しだけ道路をかりて

いざ、出じん!!

いっせいにとんだ、たんぼぼのわた毛は、

いくさの合図。

ぼくはむ中で、あばね馬のハンドルをにぎら

ペダルをこいだ、てきのじん地を目指して。

「がんばれ、がんばれ。」

「ペダルをこげーこげー。」

ぼくをおうえんしてくれている友だちの声。
ぼくの体は、ほかほかで、
むねのあたりは、ほかほかだ。
気がつくくと、ラクラクスイスイ走っていた。
友だちのおかげでやっと勝てた、春のじん。

短評 優秀賞「あばね馬じよんがばん」

めでたし、めでたし、春の陣^{じん}。

あっぱれ、あっぱれ、よろいかぶと。

黒い自転車をへあばね馬く^くにたとえたり、愛用の青いヘルメットをへよろいかぶと^とに見立てたり、まるでアニメの名場面を見るようで、こちらもハラハラドキドキしてしまいました。

想像力が豊かで、はつらつとしたこの詩を、第一位にも考えただのですが、ハチャメチャぶりも第一位ですので、このコンクールに応募してくださった皆さんの元気つけにも、さいごに組ませてもらったことになりました。来年もぜひご出陣を。へやる気スイッチくをオンにしてね。

優良賞

くも

絹川小学校 一年 篠崎 海里

くもっておもしろいね
ふわふわそらにうかびながらいろんなかたちに入んしん
するよ
あのかもはおさかな
あのかもはねこ
あのかもはぼくのだいすきなたこやきだ
ずっとみていたらねこのくもとさかなのかもがくつついた
くもおおなかがすくのかな
ぼくもたこやきがたべたくなりましたよ

優良賞

あむがお

江川南小学校 一年 廣瀬 愛永

おおきなはっぱ
そらにむかって
ながくまっすくのびるつる
たくさんのたいようをあび
まいにちみずをやる
きれいなはながさき
なつがきたことを、おしえてくれる
きれいなはながかれ
たくさんのたねがとれる
また、きれいなあさがおにあえる。

優良賞

おまじろ

結城西小学校 二年 青木 茶々

セイヤ セイヤ セイヤ セイヤ
おみこしがおどってる

セイヤ セイヤ セイヤ セイヤ
おとなも子どももおどってる

セイヤ セイヤ セイヤ セイヤ
ちようちんゆらゆらおどってる

ピーヒャラドンドン ピーヒャラドンドン
ふえもたいこもおどってる

かきごおり チョコバナナ りんごあめ
わたしの心もおどってる

優良賞

毎日のやまぼ

城南小学校 三年 河田 奈菜美

リーンと風りんがなっている
ばあーちゃんと行く夕方の田んぼ

ゲコゲコ鳴くカエル
土をほってもぐっているザリガニ

大きくなってきたタニシの赤ちゃん
エサを食べて立ち止まっている白さぎ

いそがしそうにとんでいるトンボ
お兄ちゃんが入ったどろんこ田んぼに
大すきな生き物がいっぱいだ

水がキラキラ光ってきれいだな
サーっと風もふいて気持ちがいいな

優良賞

赤ちゃん

絹川小学校 三年 石島 里桜

つるつる ぶにゅぶにゅ
すべすべ ぶるぶる
あかちゃんをだっこすると
すりすりギューってしたくなる。
くろくろ の目と
ふわふわ かみのけ
むちむち 足と
まんまる おなか
ねがえりできたらいつしよにゴロゴロしよう
あるけるようになったらいつしよにおさんぽしよう。
もっといっぱいーしよにあそびたいから、早く大きくなってね。

優良賞

声のタカラモノ

上山川小学校 三年 山中 聖心

お父さんがお母さんと家族になり
わたしが生まれて三人家族になり
妹が生まれて四人家族になり
弟が生まれて五人家族になった
「おはよう、おやすみ」
「いってきます、いってらっしゃい」
「ただいま、おかえり」
「ありがとう、ごめんね」
家族がふえるたびに新しい声が生まれる
家族がふえるたびにえがおもふえる
えがおがふえるたびに元気も五倍になる
家族はわたしのタカラモノ

優良賞

えいがかん

江川北小学校 三年 高野澤 樹里

くらく広い部屋

だんだん畑のように

たくさんのが

ならんでる

天井はすごく高く

前にはとても大きな

白いカベ

何回来ても

ドキドキワクワク

もうすぐえいがが始まるよ

みんなでないたりわらったり

今日はどこにすわろうか

優良賞

ぼくのやさい畑

山川小学校 四年 上野 倅大朗

庭のすみっこに、ぼくの小さな畑がある

その畑には、トマト、ナス、オクラが植えてある

毎日やさいを収穫するのがぼくの楽しみだ

今日は、どんなやさいがとれるかな

朝の太陽に照らされて光っているのはトマト

ルビーのように光っていて一番目立っている

濃紫色で太っているのはナス

体は大きいのにキズがつくことをいやがるデリケートなやつ

つやのある体は畑で光るアメジスト

空に向かって真っすぐのびているのは緑色のオクラ

大きな葉っぱに守られていて王様みたい

ねばり気があってえいよう満点のオクラは緑色のエメラルドだ

ぼくの畑には、自然の宝がたくさんある

これからも虫ややさい達が喜ぶようなフワフワでやわらかい畑を作って作物や虫達を大事にしていきたいと思う。

優良賞

わたしは桜

城南小学校 五年 下河邊 愛未

早起きのたんぽぽに起こされて
ちぢこまっていた花芽を
いっせいに開く
うすいピンク色の衣しように着て
春風にふかかれています
みんながわたしの下に集まって
お弁当を食べている

ぎらぎらの太陽にまけないように
力強くこい緑の葉を
えだいっばいにつけて
風に乗ってゆらゆらおどる
かげもつられておどっている
みんながわたしの下に集まって
うれしそうにすすんでいる

ちよっぴり寒くなってる
わたしの衣しよりは
赤や黄色にそまる
冷たい風がふくたびに
葉を少しずつひらひら落とす
みんながわたしの下に集まって
落ち葉拾いをしている

こがらしがふくと
わたしのじまんの衣しよりはなくなって
周りが静かになる
みんなは気付かないけど
小さな花芽をつけて準備をしているよ
春になったらまた来てね

優良賞

「平和」のために

結城西小学校 五年 星野 将輝

戦争はいやだな
人と人との殺し合い
相手をうらんでも死んだ人は帰ってこない
一人や二人じゃない
たくさんの人が一度に死んでしまう
悲しいな
こわいな
広島と長崎の原ばく
ドイツ人のユダヤ人殺害
一つのばくだんで何十万が死に
ユダヤ人というだけで六百万人以上の人が殺された。
戦争を知ることが平和を知ること
平和な今日が続くよう
戦争のことをたくさん勉強しよう。

優良賞

地面の気持ち

城西小学校 五年 吉田 彩乃

地面に気持ちはあるのかな
人にふまれてふんづけられて
いたくもなんともないのかな
地面に気持ちはあるのかな
雨にうたれて風が吹いて
ぬれてかなしくないのかな
地面に気持ちはあるのかな
雪にうもれてみえなくなつて
冷たくさびしくないのかな
地面に気持ちはあるのかな
わたしは地面にねそべって
地面の気持ちを聞いてみたい

優良賞

桜

結城小学校 六年 野呂瀬 早紀

春は風が運んでくるの？
春はいつ始まるの？

笑ったら春だ あっぷっぷ
ほっぺをこれでもかとおくらませ
にらめっこ

がまんくらべの真っ赤な顔したつぼみたち
春風にくすぶられ
ポン ポン ポポンと
笑顔の花さくさくらたち

遠くに見えた さくらの花
今では 手をのばせばとどきまそう
次のさくらに会う時は
春風の下
制服すがたの私がいる

優良賞

ランドセル

結城西小学校 六年 根津 里央

春になってやってきた一年生
大きなランドセルをしょって
ゆっくり私の後をついてくる

ピカピカのランドセル
でも、うらやましいとは思わないよ
私のランドセルには
思い出がたくさんつまっているから
みんなのランドセルも
思い出がいっぱいになっていくんだね

春になってやってきた一年生
まぶしいランドセルをしょって
うれしそうに私の後をついてくる
ピカピカのランドセル
本当は少しうらやましいよ
私はランドセルと
もうすぐお別れだから
思い出をいっしょにつくりたいから
もう少しだけ私の背中についてね

優良賞

集中

絹川小学校 六年 松本 輝

キャッチャーにボールがおさまったとき
ぼくはホームベースをふんでいた
ぼくのバットで一点をとった

プレイボールの音がかかる
ぼくは一番バッター
ベンチからは、応援が始まる
相手ピッチャーがふりかぶり
手からボールがはなれた
それはぐいぐいとぼくの方へきて
キャッチャーミットにおさまった
「パシン」
「ストライク」
二球目は打ってやる
ピッチャーの手から
ボールがはなたれる
それはぐいぐいぼくの方へきた
ぼくはバットを力いっぱいふった
「カキーン」
投げたボールは、ぼくのバットにあたり
どんだん遠くへいく
白い点は、青空にすいこまれていく
それは、外野をこえた
ぼくは全力で走った
一、二、三、三塁とベースをふんだ
ベンチからは行け、行けと声がかかる
飛んでいったボールは
少しずつ近づいてくる

優良賞

大丈夫

結城中学校 一年 中村 木ノ実

「大丈夫」

ふだんなにげなく使っている
この言葉

その言葉に

何度救われたことだろう

辛い時

何度力になったことだろう

泣いている時

何度はげみになったことだろう

どんな時も

安心できる

笑顔になれる

魔法の言葉

「大丈夫」

優良賞

私の名前

結城中学校 二年 中嶋 保笑

私が生まれた次の日に

母はあるニュースを見た

それは、外国の大きな建物に

飛行機がわざとぶつかり

たくさんの人をぎせいにするという

悲しい悲しいテロの映像だった

母が私につけた名前

どんなことがあっても

笑顔を保てるように

たくさん笑えるように

だから私は

笑っていられる気がするんだ

時々涙を流したり

落ちこんだりすることもあるけれど

その後は精いっぱい笑えばいい

私はいつも笑う

笑いたい

そしてたくさんの人も笑顔にしたい

だからそんな人生がおくれるように

いつもがむしゃらに生きて

前を向いて歩いていこう

優良賞

いじみのフタ

結城東中学校 二年 田村 俊輔

きみのところはどこなんだ
あたまの中かな むねの中かな
だげどぼくにも分らない
きみのところはどこなのか

きみのところはどんなかな
小さいのかな まるいのかな
だげどぼくには分らない
きみのところはどんなのか

きみはここにフタをして
ここをかくしているのかな
だったらぼくはそのフタを
あけられるようにがんばるよ

優良賞

音と気持ち

結城東中学校 二年 松内 ヒナキ

この音が聴こえている？
雨が屋根をコツコツたたいている
気持ちを楽にしてらん
音が段々音楽のように聴こえてくるよ

この音が聴こえている？
風が森の木々をゆらす音
気持ちを穏やかにしてらん
気持ちが段々明るくなってくるよ

この音が聴こえている？
海の中から聴こえる音
魚の動きや大きさが音が変わるよ
気持ちをかわらかくしてらん
あなたは段々眠くなるよ

この音が聴こえている？
地球の泣く声が
数多くの木が倒れるとき
叫ぶ悲鳴が聴こえるよ
地球が危ないよ

この音が聴こえる？
いつものように聴こえる皆の声
気持ちを明るくしてらん
平和で良かったなと思えるよ

優良賞

つながれた命

結城東中学校 二年 宮田 牙香

今わたし達は生きています
あなた方が夢見た未来で

今わたし達は生きています
あなた方が願った平和の中で

今わたし達は生きています
勉強…部活…将来…
贅沢すぎる悩みの中で

わたし達は知らない
死の恐怖 生きる事の後悔

わたし達は知らない
終戦を知った時
あなた達が何を感じたのかを

わたし達は生きています
あなた方からつないでいただいた命
幸せを求め生きています

わたし達は知らなければならぬ
戦争の恐ろしさを

わたし達は伝えなくてはならない
戦争を体験した方達の心を
わたし達はつながなければならぬ
戦後を…

優良賞

人間と星

結城南中学校 二年 山中 菜々

夜空に輝く沢山のきれいな星
輝いている形はさまざま

輝きもさまざま

でも一つ一つしっかりと輝いている

まるで人間のようだ

人間も同じではないだろうか

一人ひとりが星のように輝いている

どんなに小さくたって消えそうだって

皆、一生懸命に輝いている

夜空を照らすのは星の輝きではないか

世界を照らすのは人間の輝きではないか

一生懸命に輝こうと思えば誰でもどんな星でもきれいに

輝けるのではないだろうか

優良賞

「君なんか」

結城中学校 三年 佐藤 茉紘

君はいつだって僕を怒らせる
僕の中の一番の問題児

イタズラをするのが好きな君

もう 君のことがキライだ

君はいつだって僕を泣かせる

僕の中の一番の悪魔

悪口を言うのが好きな君

すごく 君のことがキライだ

君はいつだって僕を笑顔にする

僕の中の一番のおしゃべり上手

人の笑顔が大好きな君

あれ 君のことがキライなのに

どんだん顔を変えて

僕の心をもてあそぶ

どんだん顔を変えて

僕の心をつかんでく

僕は君のことがキライ 大キライなのに

君が目から離れない

なんだろう

すごく曖昧な僕の感情

今までに体験したことない感覚

会いに行こう 君に

そしたら何か分かるかもしれない

そしたら何か変わるかもしれない

そしたら何か変わるかもしれない

優良賞

代弁者

結城南中学校 三年 海老澤 匡希

口に出せない思いが
つもる つもる

上手く表せない私は
つもらせる事しか、知らない

キラキラとした太陽が
私を照らす

何も分らない私をあざ笑うように
照らす

広い宇宙に居る

大きな大きな太陽を見つめると
地上に居る私はとても小さくて
とてもみじめに思える

静かで冷たい雨が

風と共に私のほおをなでる

シトシト シトシトと

何も言わずに居る

近いようで 遠くに

静かなようで 何かを訴えるように
どこか悲しげで

泣いているように、見えた

“悲しう” “泣く” “うしろ言葉は”

不思議と私の胸にびたりとはまった
無くしたまま 見つからなかった
パズルのピースを見つけた時に似ていた
そうか 私は 悲しいんだ
泣きたいんだ

空がこぼした涙は
私の心へとしみていった
ぬれた私のほおに
温かいしずくが、伝った

優良賞

ラムネ

結城南中学校 三年 渡邊 拓朗

ある日、ラムネを買ったんだ
ラムネの中には宝石一つ
それから無数の真珠が上り
ぼくは、それを開けたんだ
そしたら宝石ころがり落ちて
無数の真珠がさらに湧き出し
空気の中に消えてった
それを見たぼく消えないうちに
口にたくさん流しこむ
そしたら真珠がはじけ出し
シュワシュワシュワ
パチパチパチ
そして静かに消えてった

優良賞

わんぱくぼ

結城南中学校 三年 渡邊 春香

真っ赤な実が
ぼくのとなりにいつもいる
とても元気で輝いてる
けんかをしたり
きらいな所もいっぱいある
でもやっぱり
ぼくのとなりは
真っ赤に輝く君だ
かわいい実が
ぼくのとなりにいる
なぜかつながっている
笑いあったりして
いつか離れてしまうのに
悲しい顔をみせない
離れるまで
ぼくのとなりは
真っ赤に笑う君だ

優良賞

一人に一つの人生を

結城第二高等学校 二年 中尾 有沙

人の人生は

一人につき一度きり

だから

一度きりしかないと思って

一日一日を大切に生きていこう

どんなに辛くても

どんなに悲しくても

いつかそれが

いい思い出となって

自分を照らし出してくねるはずだから

信じよう

自分の人生を

—新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩ラ・メール」を創刊。
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花」を寄贈。結城紬大使就任。

—新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

[目的] 結城市出身の女流詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

[募集作品] 自由題の未発表詩

[応募資格] 結城市在住、在学の小・中・高校生

[選者] 新川 和江（最終選考）

関 和代

山中 和江

吉田 峰代

[経過]

- 平成 16 年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）
- 募集作品：「私（わたくし）が大人になったら」・「私（わたくし）のふるさと」のいずれかを題材とする
 - 応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生
 - 最優秀賞：「わたしのふるさと」
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 20 年度（2008） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）
- 新川和江賞：「あまいみをならしてね」
海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 21 年度（2009） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「夏」
向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 22 年度（2010） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「ランドセル」
野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 23 年度（2011） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「石」
藤野 里菜（結城東中学校 2 年）
- 平成 24 年度（2012） 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「日記詩」
海老澤 朋代（結城南中学校 1 年）
- 平成 24 年度（2012） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行
- 平成 25 年度（2013） 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「変わらない日々」
宮田 和佳奈（結城東中学校 2 年）
- 平成 26 年度（2014） 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「やさい」
永田 美穂（山川小学校 2 年）
- 平成 27 年度（2015） 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
- 新川和江賞：「風のふで」
山田 明依（城南小学校 3 年）

—結城市民の歌—

新川 和江 作詞

1. おはよう結城 わたしたちの市(まち)
むらさきの筑波のみねから
太陽ののぼる市です
鬼怒川の流れのほとり
千年の昔も今も
娘らがはた織る音の
高らかにひびく市です
名にし負うつむぎのふるさと結城
2. こんにちは結城 わたしたちの市(まち)
旅びとも歴史をたずねて
おとずれる城下町です
いにしへの文化の上に
あたらしい未来をひらく
ひとびとが心寄せ合い
すこやかに暮す市です
かぎりなく伸びゆくふるさと結城
3. こんばんは結城 わたしたちの市(まち)
はつ夏はあの道この道
桐の花におう市です
桑の実にくちびる染めて
幼い日あそんだ友が
祭りには胸はずませて
遠くから帰る市です
なつかしい灯ともすふるさと結城

ことばはいつ 詩となるのであろう
猿に噛みくだかれた木の実は
むろの中で年月を経て酒となるように
夜ふけに草をしめらせたり露が
あけがた葉末で玉となるように

新川 和子 2

花の名

新川 和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじ

花の名をいうときには

この春やっど

ひらがなを覚おぼえたちいさな妹が
やわらかな鉛筆えんぴつで

一字書いては

うれしげににっこりするように

わたしは発音はつおんするのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして わくら……

